

(令和5)年度 児童館事業年間活動報告書 (京都市じゅらく)児童館

活動名	実施回数	参加人数									内容	成果と課題		
		乳幼児	小1～3年		小4～6年		中高生	大人	ボランティア				合計	
			自由来館	学童クラブ	自由来館	学童クラブ			中高生	大学生				大人
(2)遊びの教室活動														
かみしばい屋さん	24	6	14	1255	0	123		5			38	1441	地域のボランティアの方に、毎月2回紙芝居や絵本を読んでいた。基本第2第4金曜日の4時30分～4時45分頃まで。第2週は本館のみで、第4週は本館と分室で分かれて実施。 ボランティアの方が休みの時等は、職員が読み聞かせを行う。	・ボランティアの方の活動の場として意欲的に参加して頂け、20年を超え活動を継続して下さって、とてもありがたい。 ・昨年度から月一回は分室でも実施するようにし、子どもたちからも好評を得ている。 ・早めに来ていただけるようになり、子どもたちとお話したり、「これ読んで！」という子どもたちのリクエストにもこたえてくださり、異年齢交流にもなっている。
あそびweek	100	1	76	3589	25	279		2				3972	新しいあそびの発見と子ども同士の交流を目的として実施。また、経験のないあそびへのきっかけづくりと、馴染のあるあそびを深める。毎月テーマを決め、あそび込めるよう計画する。あそびの内容としては、昔遊び、トランプ、しょうぎなど、あそびパスポートを持ち、参加するとシールを貼ってもらえ、定期的に景品と交換できる。	・たくさん子どもたちが参加をし、初めてのあそびを体験するきっかけになった。また、あそびたことのない子ども同士を意図的にマッチングすることでつながりを作る、なかなかあそびが見つけられない子へのあそびの提供と環境設定となった。 ・あそびパスポートの保管の仕方、パスポートに対する考え方が、個人により大きく差があるが、意欲と意識を持って参加する子が大半であった。 ・自由来館の子どもたちの継続的参加に繋がるよう何らかの工夫が必要。
季節の工作	19	3	17	282	3	16		5				326	7月は七夕、12月はクリスマス、3月はプラバン。季節を感じられ、楽しみながらできる工作を行う。毎回とも子どもたちのオリジナリティが出るように工程や仕上がりに工夫をしている。	・事前作業や材料の準備期間をしっかり持ち、余裕を持って準備することが出来た。 ・子どもの作業も程よくあり、個人で工夫し、オリジナリティのある作品も出来た。 ・特にプラバンは、従来写し絵が出来るように下絵を準備していたが、今回はしなかったことで、思い思いに考えて事前準備し、オリジナリティのあるものが出来て、子どもたちも満足そうだった。
けん玉の取り組み	取組												夏休みの毎日、短時間だが取り組む時間を設定する。	・学童児童を中心に取り組むが、やってみたくと思った児童が自由に参加出来ることもよかった。 ・一回の時間設定を短くしたことで、苦手な子が負担なく参加出来てよかった。
こまにチャレンジ!	取組												導入は上級生が技の披露を行う。初日以降は積極的に声かけを行い、技の表とコツを書いたものを遊戯室に掲示。興味と意欲がわくようにし、こまに触れる機会を作る。	・1月、2月はこま板を常設。あそびweekに繋げた。 ・得意な児童の取り組み姿が刺激になり挑戦する児童も増えたが、興味を示さない子どもも一定数いる。また、高学年児童の参加減少(学童欠席多数)で、大技(名人、師範)を披露出来る子は減った。 ・紐巻きは概ねの子どもが出来ていたが、回し方に強い癖のある子が多く、回すまで長時間がかかった事と、危険を伴うことがあり注意が必要だった。 ・回せるようになった時の楽しさと達成感を一人でも多く体感させるための工夫が必要である。
(3)行事活動														
マイかまぼこ板作り	取組		1	114		10						125	かまぼこおとしの取り組みのため、各自でかまぼこ板に絵を描き、マイかまぼこ板を作る。	・それぞれが自由に絵を描き、オリジナルのものが出来た。 ・かまぼこおとしに参加する意欲付けになった子、絵を描きたいという気持ちだけで作った子、両方いたが、概ねは楽しく作ることが出来た。
かまぼこおとしをしよう(導入)	取組											0	かまぼこおとしの説明とルール変更の確認。新しく導入した「かまぼこおとしカード」の説明を行う。	・1年生対象に3年生が遊び方の手本を行うことで興味を持たせることができた。 ・普段は自分の好みのお遊びしかしない子の参加も多く、いろんな子ども同士が対戦を通し関わり合えた。
絵手紙をかこう	3		6	49	4	7		4				70	日本絵手紙協会所属の講師に指導していただく。自分の手や足を観察し描いた後、季節の野菜や果物を題材にし、敬老の日に向けてなかなか会えない人に宛てて絵手紙を描く。	・土曜日を含み開催。1ター15名・1時間として実施したが、各回とも時間が短く、作業を終えられず延長してしまうことになった。次年度は、時間にも環境的にも余裕を持って活動したい。
防災訓練	13		10	782	4	73		3				872	年間を通し、防災について学ぶ場を設定し、避難訓練を行う。また消防署の協力を得て、児童館から小雀ひろばまでの避難と職員の消火活動などを行う。 警察保育所の協力を得て、夏休みを利用し、本館での避難経路を知るために、分室児童が本館にいる時に実施。 幼児クラブ登録者に、避難経路や児童館での災害時の対応を周知するために、前期後期で各1回ずつ実施。	・児童館の利用者全員を対象に実施しているが、なかなか自由来館児童の参加にはつながらない。学童クラブ登録者ではあるが、大人の方にも数名参加して頂けたことで、活動を知っていたのだと思う。 ・子どもが楽しみながら学べるようクイズ形式にするなど工夫した。また、立て靴を履く、自宅住所や連絡先を覚えておくなど、万が一に備えた行動も伝えることが出来た。 ・避難行動は回を重ねることに速やかにできるようになった。 ・訓練中、緊急出動の要請があり隊員が出動する姿を見ることが出来た。子どもたちにとって、貴重な経験になった。

交通安全教室	2			69		13							82	中京警察署より参加の依頼があり、自転車ののり方や交通マナーについてのお話を聞く。	・本館・分室に分かれ二日にわたり実施した。お話の後、子どもたちからの質問タイムにも答えたいことが出来た。 ・静かにじっくり話を聞くことも出来ていた。	
北野天満宮七夕まつり短冊奉納	8	3	4	95	1	5	2		7				117	笹飾りとお願い事を作り、北野天満宮の七夕まつりで飾っていただく。自由来館児童、学童クラブ児童、乳幼児クラブ登録者へ参加を促す。	・我が子の成長を願う短冊や、親やきょうだいの健康を願う短冊など、それぞれの願いのこもった笹飾りが北野天満宮に飾られ、見に行かれた家庭から感想などを聞くことができた。 ・職員が短冊以外の飾りを作り一緒に飾ることで、華やかさも加わった。	
防犯訓練	1			67			6	2					75	警察署との協力で小学生対象で防犯教室を行う。	・児童館の利用者全員を対象に実施しているが、なかなか自由来館児童の参加にはつながらない。 ・毎月必然的に訓練などに参加する学童児童とは違い、何をするかわからないから、参加したくないとの声も聞いたので、参加しやすい誘いかけや広報をしていきたい。	
フードロス講座	1			8	13			2				6	4	33	京都市からの案内で申し込みをし、フードロスについての話を聞く。クイズ形式やお話の中で意見を交換する場面があり、参加型の講座。	・フードロスの啓発活動と共に、大学生ボランティアの活動の場の提供も出来た。 ・参加した子どもたちは、自分の意見や感想を言える場面では、しっかり手をあげ参加する姿も印象的であった。
伝統工芸体験 京扇子	2		31	24		4								59	京都伝統工芸主催の伝統工芸体験に申し込み、児童館にて職人さんに工芸の伝授をしていただく。	・制作だけでなく投扇興の体験もさせていただき、日常では体験することの出来ない貴重な体験となった。 ・当日をスムーズに進行するため、準備作業をする日を1日設ける。 ・申込書をじょうかんだよりに付けたが、学童クラブ登録家庭は見落としが多かった。 ・児童館は狭く、活動するために学童クラブ出席児童には寒い中、体育館での遊びに行ってもらう事になった。学童クラブ児童の居場所確保にも課題はある。
けん玉検定①～⑤	5		4	267					40					311	7月、8月に5回実施。10～1級、名人(5技)師範(5技)の設定を行い、練習に取り組んできた成果を発揮する。	・意欲を持ち進級していく子と、苦手意識を払拭出来ず取り組まない(取り組めない)子の差が大きい。みんなが取り組めるような活動方法を見つけない。 ・進級出来た子は自信につながり、とても良い顔をしていた。
けん玉検定表彰式	1			78					7					85	自分の頑張りを、進級を確認する。また、お友だちの進級なども共に祝う。 級→認定証 名人・師範→賞状と記念プラバン	・意欲を持って取り組んだ子は、自信につながる良い場となった。また、名人以上に進級した子には、記念プレゼントを渡したことで、さらなる意欲を持ってくれた。
館外活動 人形劇を観に行こう	1	1	1	60					6					69	公共の乗り物に乗り、観劇に行く。	・コロナ禍以降、初めての館外活動として実施。子どもたちもとても楽しそうであった。 ・観劇終了後、バスの待ち時間のため、近くの公園に寄りすが、子どもたちはのびのび開放的に遊び満喫で来ていた。 ・自由来館児童の参加が少なかったため、内容・広報の仕方に工夫と検討が必要。
パスポートチェックday	3			81					3					84	あそびweekでの頑張りをチェックする。自由来館児童は10個、学童クラブ児童は15個のシールがたまるとがんばり賞がもらえる。	・毎日来る学童クラブ児童と、自由来館児童で、シールの枚数差をつけましたが、自由来館児童にパスポートの浸透がなかったことで、学童クラブ児童のみとなった。次年度は浸透するよう工夫を重ねたい。 ・小さな些細なものであっても、子どもたちは喜んでくれていた。 ・パスポートの紛失も多く、あり方からの検討が必要。
おたのしみ会実行委員会	3			29					6					35	おたのしみ会を運営するために、企画から参画する。	・児童館だけで募集したくさんの子どもたちが集まってくれた。 ・分室児童の子どもたちには、本館に来て話し合うことが物理的に難しく、別で話し合いをした。 ・今後会議の持ち方を検討する必要がある。また、慣れもある児童がおざりな活動の仕方をする部分もあり、下級生への影響も考え、丁寧な補助が必要だった。
おたのしみ会	1		23	8		2			2					45	職員と実行委員の子どもたちの考えたあそびを、グループに分かれて楽しむ。最後に、朱二社会福祉協議会よりお菓子のプレゼントをいただく。	・実行委員の子どもたちのゲームも、職員のゲームも盛り上がった。 ・少人数に分かれるためのグループも学年ごとのくじ引きで行う事で均衡がとれ、新しい関係性も出来た。 ・当日は保護者の方も子どもたちの様子を見に来てくださり、活動や子どもたちの姿を見ていただけた。 ・朱二社会福祉協議会よりお菓子のプレゼントもしていただき、子どもたちも喜んでた。
大そうじ	1			52					5					57	年末に、日頃あそんでいる館内と小雀ひろばの掃除を行う。	・広報不足もあり、学童児童のみの参加となった。参加した子は張り切って掃除をしてくれた。普段は手の届かない所も、子どもたちから気づいて協力して手を伸ばし懸命に働く姿が印象的だった。

こまにチャレンジ！	4			92			10						102	こまとこま検定の説明と約束の確認。上級者に技のデモンストレーションをしてもらい、楽しさを伝える。	・本館ではデモンストレーションをせずに始めてしまい、上級者の活躍の場を設定できなかった。 ・こまは難しいあそびで、楽しみにつながるまでに時間がかかる。紐を巻く練習に時間と人手をかけ、楽しさがわかる域までつなげる必要を感じた。
こま検定①～⑤	5		3	205			25						233	1月・2月で計5回実施。検定表に沿った技の練習をし、進級する。10級～1級、名人技5つ、師範技5つを用意する。4級以上の子どもは検定員も行う。	・物理的な問題で、練習してから検定を受けるまでのタイムラグで気持ちを維持するのが難しいこともあった。途中から、練習する場所と、検定を受ける場所に分けて行ったが、子どもたちには、練習しているのかダメなのか？わからない状況を作ってしまった。 ・子どもたちは楽しみながら検定員をしてれていた。
こま検定表彰式	1			46			5						51	検定終了後に認定証と名人と師範には賞状と記念プラバンを渡す。	・2か月間に渡り目標に向かって取り組んだ成果をみんなで見ることができた。 ・努力すること、あきらめず継続することを参加した子どもたちは体感できた。
凧作り	6		3	19			1						23	親子たこあげ大会に向けて、自分の凧に絵を描く。	・事前に絵を描き、当日を楽しみにする一つになっている。何を描くか考えてきた子どももおり、絵もダイナミックに大きくかけていた。 ・この数年、同じ凧を作っているが、簡単でよくあがり、保管や持ち運びにもよいので、次年度もこのままで良いと思う。
親子たこあげ大会	1		14	5			1			18			38	朱六小学校の体育館とグラウンドをお借りして、親子で一緒に凧あげを楽しむ。	・凧作りの最終工程では、保護者と来ていない学童児童にも優しく声をかけて手助けしてくれる保護者の姿もあり、和気あいあいとした雰囲気であった。子どもたちの様子を見てもらえるよい機会にもなっていた。
(4)クラブ活動															
てづくりクラブ	11						13						13	4年生以上対象の年間登録制クラブ。基本毎月第3土曜日に実施。初回に子どもたちが意見を出し合い、年間の活動内容を決める。	・登録者2名のみとなり、最後まで増えることはなかった。 ・無断欠席もあり、当日出席者がいないこともあった。 ・内容、クラブの名前、あり方について再考する必要がある。
なかよしクラブ	11		83	28									111	1年生から3年生対象の年間登録制クラブ。基本毎月第3土曜日に実施。初回に子どもたちが意見を出し合い、年間の活動内容を決める。個人で楽しむもの、全員で協力するもの、体を使って行うものなどを実施。協力して作った作品は、作品展に出展する。3人グループを作り、年に1回、グループで企画をし進行する。	・各自で作った名札を見て、名前を呼び合う姿も見られた。 ・個人の活動とグループでの活動に取り組み、少しずつ交流出来たと思う。 ・親子であそぼうに参画した際は、腰をかかめ話しかけるなど、優しく接する姿や、話しかける姿もあり、互いに学びの機会となった。 ・次年度は、後期にグループの活動を実施するなど工夫が必要。
あそびクラブ	22		17	181									198	1,2年生を対象の年間登録制クラブ。毎月第1及び第3土曜日に実施。小雀ひろばで体を動かす・みんなで協力するなどの遊びを提供する。また、主体性を持ってよう、その日のテーマから、どうやって遊ぶかを一緒に考える。	・春の広報だけでは参加者が集まらず活動の様子を見てからの申し込みが多かったため、広報に工夫が必要。 ・昨年同様、遊びの大枠を決め、案は持ちつつ、子どもたちと一緒に「これでどうやって遊ぶ？」と考える時間を持った。見学していた保護者にも様子を見ていただけ、子どもたちの考える経験を評価して頂けた。 ・友達が入るから入っただけの子どもたちへのアプローチの難しさを感じる。
おりがみクラブ	21		121	25			3						149	小学生以上の年間登録制クラブ。基本毎月第2土曜日にクラスを2つに分けて実施。折り図を見ながら制作。自宅でも飾れる物を作る。作品展を児童館内にて行い、利用者にも児童館の活動を見せよう機会になっている。	・折り図を見て作っていくのは1年生には少し難しかったようだが、年度の終わりに手順を減らし、最後まで自分で折り上げることができ、達成感を感じることができた。 ・学年によって作るものを統一させるかどうか、要検討。
きりえクラブ	21		120	23			40				15		198	小学生以上対象の年間登録制クラブ。基本毎月第1,3土曜日に実施。作品展を児童館内にて行い、利用者にも児童館の活動を見せよう機会になっている。	・昨年度の作品を見て、憧れをもってクラブに入る子が多かった。 ・大人の参加も2名あった。 ・意欲的な子は、どんどん作品に取り組みたり、欠席の際も事前連絡してくれたが、なんとなく入った子は無断欠席も多く、今後どう対応するか要検討。
(5)地域間交流促進活動															
北・上・中ブロック児童館・学童保育所まつり2023	1	1	46	10			6					61	124	第1ブロックの行事。館所の発表と、あそびと工作のコーナー巡り。	・地域、自由来館児童に対しては、現地でお待ちしています！と広報し、学童クラブのみ引率をした。 ・当日は歩いて現地に参加する学童と、親子で現地集合の家庭とあり、入口で混乱を生じた。募集時点で集合と受け渡しの詳細をしっかりとする必要があった。次年度は気を付けた。 ・舞台発表に参加した児童は元気よく出来てよかった。短い時間だったが、楽しんで参加出来た。

	ドッジ&ゲーム フェスティバル2023	1		2	31		8					41	島津アリーナで開催された、1ブロックのドッジボールフェスティバルに参加。	・選手のみ連れていくことができ、待ち時間も座って待っていることができた。 ・低学年、高学年とも、結果は負けだったが、終わってから「楽しかった」「もったいなかった」との感想が上がり、子どもたちは参加したことに充実感と満足感を持っていた。		
	とびだせ！やんちゃんねる	取組											京都市の児童館・学童保育所が企画を提案し、ネットで閲覧できる投稿型の期間限定イベント。	・動画の投稿だけに終わってしまい、子どもたちとも一緒に活用することが出来なかった。		
	きりえクラブ・おりがみクラブ・なかよしクラブ作品展	取組											2週間に渡り、遊戯室と廊下に子どもたちの作った作品を展示する。	・運営協力会の開催日を含め、多くの地域の方や利用者の方に触れることで児童館事業を知ってもらうことができた。		
	(6)障害のある児童の居場所づくりと活動への参加促進															
	障害のある児童の居場所づくり	随時											障害のある児童が日常のあそび場のひとつとして利用できる場所を提供する。	・学童児童の友達として、数回だけではあつた遊びに来てくれた。 ・保護者、学校、関係各所との連携を行い、遊び場が必要な児童の居場所としての利用につなげていきたい。		
	(7)思春期児童の活動支援															
	中高生time	随時										4	5時以降を中高生timeとし、あそび、勉強、おしゃべりの場として開放。不定期で、工作やあそびの企画を入れる。	・フラッと遊びに来てくれたり、おたよりを見て工作をしに来てくれた。忙しいティーンにとって、時間の問題だけではなく、利用にはつながるには難しい。 ・次年度は、中学などの試験期間なども照らし合わせながら、定期的を実施していきたい。		
	中高生世代と赤ちゃんとの交流活動 (事業推進委員会も含む)	7回					3	121				9	8	141	①第1回事業推進委員会：年間計画の周知 ②：児童館事業に参加し、乳幼児親子と交流 ③：聚楽保育所へ出向き、乳幼児親子と交流 ④：地域の子育てサロンへ出向き、乳幼児親子と交流 ⑤赤ちゃん講座事前説明：推進委員に当日の流れの確認。 ⑥：赤ちゃん講座：西ノ京中学校2年生対象に助産師の講演、体験を実施。 ⑦第2回事業推進委員会：事業の振り返りアンケートの配布。振り返りを実施。次年度に向けての計画書の発信。	・今年度はお顔を合わせたの会議を持つことが出来た ・ご案内配布時に、お顔を見てお話が出来た委員さんからはお気持ちやお考えを聞くことが出来た。 ・赤ちゃん講座で、中学校担当の教員と助産師と入念打ち合わせが出来た。 ・体験型の講座を行うことが出来てよかった。しかし、説明不足もあり、委員さんにはご負担をかけた部分もあった。
	(9)エコ活動															
	子ども用品・子育て用品「譲りませ！もらいます！」	随時											子どものおもちゃや子育て用品が不要になった家庭が必要な家庭にリサイクルを呼びかける。	・少ないながらも数名の利用者があつた。 ・利用者に制度やシステムをわかりやすく掲示するなど、今後も工夫が必要だと感じた。		
	合 計		15	604	7579	105	656	129	140	0	6	50	9284			
推進活動	夏のオアシス！ クールキッズステーション	随時											各家庭でのエアコン使用による電力消費を抑え、児童館の利用を呼び掛けている。	・幼児クラブなどで、クラブの無い日でもあそびにお越しくださいと声掛けはしたが、学童クラブ利用者も多い中、なかなかクラブ外での利用にはつながらなかった。 ・イベントの行い、来館を促そうにも、学童クラブの人数も多く、物理的に難しい。		
	合 計		0						0	0	0		0			
指定活動	合 計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	子ども育成機能 合 計		15	604	7579	105	656	129	140	0	6	50	9284			

*注 基本活動は、指針に基づき(2)遊びの教室活動(3)行事活動(4)クラブ活動(5)地域間交流促進活動(6)障害のある児童の居場所づくりと活動への参加促進(7)思春期児童の活動支援に分類して記入すること。

推進活動は、指針に基づき(9)地域を知る活動(10)移動児童館活動に分類して記入すること。

指定活動は、指定児童館のみ別途報告すること。